ー行方むかし話ー

七郎河童とお殿様

むがぁし、むがぁし、あっただど。
常陸国はぁ大掾平氏一門の芹澤隠岐守俊幹っつぅ殿様がいで行方現原の梶無川さ架がった土橋ば馬さ乗っかって渡っていだら、馬が踏ん張って前さ進まなぐなっちっただど。おっがしぃなぁど思って、後ろば見だら蔓草みでった髪ば振り乱した河童が馬の尻尾ば引っ張ってだんだど。殿様は、いぎなり刀ば抜いで河童の手ば一刀両断ぶった切って、館さ持って帰ってきたんだど。
その晩のごど、殿様の枕元にさっきの河童が出できて、涙ばハラハラ流しながら「オレが梶無川に住んでる七郎河童っつうもんだげどぉ、昼間に殿様の馬さ、いだずらばした悪い河童だなぁ。悪いごどばしてバチが当だったのは悔やんでねぇけっども、うぢには具合の悪いおっ母ぁがいで、面倒ば診んのも、片手だどながながうまぐいがねぇ。どうが、殿様のお慈悲で手ば返してくんねぇがなぁ。返してくれだら秘伝の薬ば使って手ば接いで、おっ母ぁの面倒も診れんだよなぁ。お礼っつったらなんだげっども、その続断愈創の手接ぎの秘法ば教えこっどど、毎日魚ば届けっからぁ手ばぁ返してくんねぇがなぁ、お願ぇすっからよぉ」っつって反省してっから殿様も七郎河童が親ば思う気持ぢに免じで「これがらは、いだずらばすんなよ」っつって、七郎河童に手ば返してやっただど。七郎河童は、手接万能の秘法と、きりすねば殿様に教えでやって、その晩は帰っていっただど。
次の日がら毎日、館の梅の木の枝さ二匹の魚が引っ掛げであったんだど。殿様の家臣やら村人らは、この庭の木ば「魚掛梅」っつって河童の恩返しば誉めでやったんだど。
それがら何年がたって、いぎなり魚掛梅に魚が引っ掛がらなぐなっちったんだと。心配した殿様は翌日家臣に命じで梶無川の近ぐば探させだら、家臣の孫衛門が上流与澤地内の神橋袂で、手ば接いだ傷のある河童の屍ば見つけで、殿様に伝えだど。
知らせば聞いだ殿様は、「孝」ど「仁」ば尽ぐした七郎河童ば憐れんで、梶無川の岬さ小祠ば建でで「手接明神」っつって弔っただど。今も殿様が七郎河童の手ば切り落どした橋が「手奪橋」っつって行方の芹沢にあんだがら不思議な話しだわなぁ。
とっぴんからのぴょん。

※手接神社
茨城県小美玉市与沢の地に鎮座する「手接神社」は、水の精霊岡象女命（ミツハメノミコト）が祀られ、疾病、田畑、水早の厄除、その他諸々の守護に与っていることから、参拝祈願の数が絶えることがありません。特に切り傷や骨折などの回復にご利益があり、近郷遠方を問わず多くの信者があります。この神社の由来には右記の河童の伝説が残されています。記録によると芹澤隠岐守俊幹は文明十三年（一四八一）年九月九日に「手接明神」を設置したと伝えています。その後、七郎河童の手接秘法の恩顧に報いて、永正四（一五〇七）年九月九日に篠原明神境内地に社を遷し相殿となし、「手接神社」と称して奉り今日に至っています。
（参照「手接神社縁起」ほか、文責・構成：内田啓 他）

ー行方むかし話ー

七郎河童とお殿様

むがぁし、むがぁし、あっただど。
常陸国はぁ大掾平氏一門の芹澤隠岐守俊幹っつぅ殿様がいで行方現原の梶無川さ架がった土橋ば馬さ乗っかって渡っていだら、馬が踏ん張って前さ進まなぐなっちっただど。おっがしぃなぁど思って、後ろば見だら蔓草みでった髪ば振り乱した河童が馬の尻尾ば引っ張ってだんだど。殿様は、いぎなり刀ば抜いで河童の手ば一刀両断ぶった切って、館さ持って帰ってきたんだど。
その晩のごど、殿様の枕元にさっきの河童が出できて、涙ばハラハラ流しながら「オレが梶無川に住んでる七郎河童っつうもんだげどぉ、昼間に殿様の馬さ、いだずらばした悪い河童だなぁ。悪いごどばしてバチが当だったのは悔やんでねぇけっども、うぢには具合の悪いおっ母ぁがいで、面倒ば診んのも、片手だどながながうまぐいがねぇ。どうが、殿様のお慈悲で手ば返してくんねぇがなぁ。返してくれだら秘伝の薬ば使って手ば接いで、おっ母ぁの面倒も診れんだよなぁ。お礼っつったらなんだげっども、その続断愈創の手接ぎの秘法ば教えこっどど、毎日魚ば届けっからぁ手ばぁ返してくんねぇがなぁ、お願ぇすっからよぉ」っつって反省してっから殿様も七郎河童が親ば思う気持ぢに免じで「これがらは、いだずらばすんなよ」っつって、七郎河童に手ば返してやっただど。七郎河童は、手接万能の秘法と、きりすねば殿様に教えでやって、その晩は帰っていっただど。
次の日がら毎日、館の梅の木の枝さ二匹の魚が引っ掛げであったんだど。殿様の家臣やら村人らは、この庭の木ば「魚掛梅」っつって河童の恩返しば誉めでやったんだど。
それがら何年がたって、いぎなり魚掛梅に魚が引っ掛がらなぐなっちったんだと。心配した殿様は翌日家臣に命じで梶無川の近ぐば探させだら、家臣の孫衛門が上流与澤地内の神橋袂で、手ば接いだ傷のある河童の屍ば見つけで、殿様に伝えだど。
知らせば聞いだ殿様は、「孝」ど「仁」ば尽ぐした七郎河童ば憐れんで、梶無川の岬さ小祠ば建でで「手接明神」っつって弔っただど。今も殿様が七郎河童の手ば切り落どした橋が「手奪橋」っつって行方の芹沢にあんだがら不思議な話しだわなぁ。
とっぴんからのぴょん。

※手接神社
茨城県小美玉市与沢の地に鎮座する「手接神社」は、水の精霊岡象女命（ミツハメノミコト）が祀られ、疾病、田畑、水早の厄除、その他諸々の守護に与っていることから、参拝祈願の数が絶えることがありません。特に切り傷や骨折などの回復にご利益があり、近郷遠方を問わず多くの信者があります。この神社の由来には右記の河童の伝説が残されています。記録によると芹澤隠岐守俊幹は文明十三年（一四八一）年九月九日に「手接明神」を設置したと伝えています。その後、七郎河童の手接秘法の恩顧に報いて、永正四（一五〇七）年九月九日に篠原明神境内地に社を遷し相殿となし、「手接神社」と称して奉り今日に至っています。
（参照「手接神社縁起」ほか、文責・構成：内田啓 他）